

2024 年春 初開催！

**開幕まであと 30 日！**

青森県内 5 つの美術館・アートセンターによるアートフェス

# AOMORI GOKAN アートフェス 2024

## 「つらなりのはらっぱ」

AOMORI GOKAN Arts Fest 2024 「Interweavers in Open Fields」

2024 年 4 月 13 日(土) — 9 月 1 日(日)

共通企画ラーニング・プログラム、各館の関連イベント、

オリジナルグッズを発表！

青森県内にある 5 つの美術館・アートセンター(青森県立美術館、青森公立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館)で、4 月 13 日(土)から 9 月 1 日(日)まで開催する「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」は、開幕まであと 30 日となりました。公式ガイドブックが 3 月 13 日(水)よりミュージアムショップ、オンライン等で発売になったほか、5 館周遊チケットも絶賛発売中です。[共通企画] では栗林隆の《元気炉》が各館を巡回しますが、あわせて 5 館共通のラーニング・プログラムを実施します。未来に向け子どもたちにもっと身近にアートに触れ、関心を持ってもらうことを目的に、美術館で親子が積極的に楽しめる環境や学びの場となるよう鑑賞ツールの開発やプログラムを 5 館が連携して取り組みます。さらに各館では参加作家によるトークや体験型のイベント、音楽企画、リサーチをもとに作家が考案したコース料理を作品として発表するなど、各館が独自の企画力で場所、展示作品に関連したイベントを展開します。そのほかにもフェス公式のオリジナルグッズの概要が決定しました。

初開催となる本フェスは、2020 年より 5 館が連携し県民や観光客が青森のアート体験と共に、地域の周遊を喚起する「5 館が五感を刺激する—AOMORI GOKAN」の成果のひとつで、今年は「つらなりのはらっぱ」という共通テーマのもと、5 館の学芸員が中心となり各館の特徴を活かした展覧会、また各館を巡回する共通企画を開催します。またアート体験を軸に、周辺のショップや施設にも足をはこんでいただくなど地域の周遊促進にも力を入れており、観光客のみならず、県内や県周辺に在住の方々に楽しんでいただけるフェスを目指します。

## | 共通企画2 子どもたちにアートを身近に！

### ●ラーニング・プログラム

#### ①AOMORI GOKAN 鑑賞ツール \*6月中旬以降配布予定

本フェスをより深く楽しむための、子どもや親子を対象とした鑑賞ツールを用意します。5館に親しむための情報や作品鑑賞のコツなど体験の入口となるコンテンツをはじめ、各館の展示やプロジェクトに関するワークシートを制作。5館を楽しく巡っていただけます。

#### ②高校生サマープログラム \*7月開催予定

青森県内各地の高校生を対象に、一步踏み込んだ作品鑑賞と体験の共有を通して、アートをはじめとする創作活動に対する感性や、アプローチを学ぶ機会を提供します。表現を通じて他者や自己と向き合うことで、新たな発見や見え方・考え方に触れる機会を設けます。

## | 関連イベント

### ●オープニング イベント

#### 開幕記念 参加作家によるクロストーク

本フェスの開幕を記念するトークショーを開催します。第1部では青森県立美術館の設計者で「原っぱ」論を提唱した建築家・青木淳氏と、会期終盤の8月に5館を巡回する《元気炉》を手がけた現代美術家・栗林隆氏、フェスのキービジュアルを提供いただいた写真家・岩根愛氏が登壇。第2部ではメイン企画に参加する作家が一堂に集います。多彩なゲストを迎え、フェスのテーマや見どころなどについて語り合う貴重な機会となります。

開催日時	4月14日(日) 13:30-16:00 受付:13:00-
会場	青森県立美術館 シアター
内容	○第一部:「はらっぱとしての青森」 13:30-14:30 ・ゲスト:青木淳×岩根愛×栗林隆 ・モデレータ:木村絵理子(弘前れんが倉庫美術館) ○第二部:「生のつらなりとアート」 14:45-16:00 ・ゲスト:井田大介×狩野哲郎×東方悠平×アナイス・カレニン ・モデレータ:慶野結香(青森公立大学 国際芸術センター青森)
参加方法	予約不要、参加無料、先着順で定員200名
問合せ先	AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会 事務局(青森県立美術館内) TEL 017-783-3000

## ●各館による関連イベント

\*各イベントの詳細は開催館に直接お問合せください

## | 青森県立美術館

## 音楽フェスティバル「青森の合唱」

それぞれ異なるジャンルの音楽を手がけるミュージシャン 3 組によるライブをアートフェス最終日に開催します。3 組に共通するのは「青森出身、ゆかり」という点のみ。青森の個性がぶつかりあい、どのような化学反応が生まれるのか。ご期待ください。

日時 9月1日(日) 14:00 開幕予定

会場 青森県立美術館 シアター

出演 人間椅子、佐藤竹善、  
伊藤ゴロー feat. 坂本美雨

\*ライブの幕間にクロストークも開催！

定員 200名

申込 未定 \*詳細は7月頃公式WEBサイトで発表します。



## | 青森公立大学 国際芸術センター青森

## Maher Shalal Hash Baz ライブ「山の上の連絡船」

工藤冬里を中心とした実験音楽バンド、Maher Shalal Hash Baz (マヘル・シャルル・ハシュ・バズ) の野外ライブを行います。展示棟内では、工藤の父・工藤省治の作品を展示中。出演者に限らず、楽器や音の出るものを持参すれば演奏にも参加いただけます。

日時 6月15日(土) 13:00-15:00 予定

会場 展示棟 野外ステージ \*雨天決行



## | 弘前れんが倉庫美術館

## 栗林隆《元気炉》× L PACK. ほか《いっしょくたにへば たげめぐるはんで When you put them all together, it's a complete disaster.》

アート、デザイン、建築、民藝などの思考や技術を横断しながら、最小限の道具と現地の素材を臨機応変に組み合わせた「コーヒーのある風景」をきっかけに、まちの要素の一部となることを目指す L PACK.。フェスの最後を締めくくる3日間、栗林隆の《元気炉》の展示とともに、宵宮や屋台など地域の身近な文化から着想された体験型の作品を発表予定です。

日時 8月30日(金) - 9月1日(日)

会場 土淵川吉野町緑地 (弘前れんが倉庫美術館前)

L PACK.  
Photo: Koichi Tanoue

## | 八戸市美術館

## エンジョイ！パフォーマンスピクニック

パフォーマンスプロジェクト「居間 theater」が「ピクニック」をテーマにした体験型の作品を展開します。既存の場とふるまいをもとに作品を制作する彼らによる、美術館で過ごしながらかアートに出会える1日限りのイベントです。

日時 5月6日（月・祝）10:00-17:00  
会場 ジャイアントルーム  
構成・演出 居間 theater



## | 十和田市現代美術館

## 永田康祐 《Feasting Wild》

近年、食文化における身体技法やアイデンティティの形成などについて作品を制作している永田康祐が、青森で行った養殖・品種改良に関するリサーチをもとに考案したコース料理を作品として発表します。季節に合わせた8皿程度の料理とドリンクをアーティストによって書かれたテキストとともに実際に味わうことができます。

コース 「夏」  
日時 7月14日（日）・20日（土）・21日（日）18:00-21:00  
料金 8,000円  
定員 8名、要予約  
会場 14-54（十和田市稲生町 14-54）

コース 「秋」  
日時 11月10日（日）・16日（土）・17日（日）18:00-21:00  
料金 未定  
定員 8名、要予約  
会場 14-54（十和田市稲生町 14-54）



参考図版 永田康祐 《Feasting Wild》 2022年  
Photo：奥祐司

## ガイドブック、オリジナルグッズ他

### ●公式ガイドブック

▼ 公式ガイドブック 1,300 円 (税込) 美術館のショップ他、3/13 (水) 販売開始  
スタンプラリー&パスポート付き!! オンライン販売もあわせて開始!

各館で開催する展覧会や施設情報に加え、5館が位置する各市のエリア情報、周辺の観光、グルメスポット、さらには周遊のモデルコースなど充実した内容のガイドブックです。青森県外からの行き方に加え、県内を移動するアクセス情報も分かりやすくまとめました。各館のミュージアムショップ（青森公立大学 国際芸術センター青森をのぞく）、青森県内の書店、並びにオンラインでも購入可能です。

販売先	各館のミュージアムショップ、青森県内の書店
体裁	A5 変形/全 108 ページ/フルカラー
発行	有限会社グラフ青森
オンライン販売	公式 WEB サイト（リンク先：グラフ青森 注文フォーム）



### ●フェス公式 オリジナルグッズ

参加作家の作品やロゴをデザインしたトートバックやポーチ、求めやすい缶バッジ。また青森県出身のイラストレーター工藤陽之さんが描き下ろしたパッケージが特徴のスイーツを揃えました。いずれも各館のミュージアムショップ（青森公立大学 国際芸術センター青森をのぞく）で販売いたします。その他のアイテムは随時公式 WEB でご紹介いたします。



トートバック IWANE Ai  
価格：4,400 円 (税込)



AOMORI GOKAN | ロゴポーチ  
価格：2,200 円 (税込)



ロゴトート ミニ  
価格：3,850 円 (税込)



まごころ農場 りんごセミドライ  
価格：540 円 (税込)

## 開催概要

タイトル (日)	AOMORI GOKAN アートフェス 2024 「つらなりのはらっぱ」	
タイトル (英)	AOMORI GOKAN Arts Fest 2024 「Interweavers in Open Fields」	
会期	2024年4月13日(土) - 9月1日(日)	
主催	AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会 [青森県立美術館、青森公立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館、青森県、青森市、弘前市、八戸市、十和田市、(公社)青森県観光国際交流機構]	
実行委員長	青森県立美術館 館長 杉本康雄	
特別協賛	(株)プロクレアホールディングス リベラ (株)	
協賛	青森県信用金庫協会 (株)角弘 (株)三和堂 津軽海峡フェリー(株) 東和電材(株)  青森朝日放送(株) (株)青森テレビ 青森放送(株) 青森三菱電機機器販売(株) 青森三菱ふそう自動車販売(株) (株)あさひほうむ (株)オプティム (株)デーリー東北新聞社  青森県商工会議所連合会 (一社)慈恵会 (株)城ヶ倉観光  NEXCO 東日本  倉橋建設(株) (株)トロンマネージメント	富士見総業(株) 紅屋商事(株) (株)マエダ (株)吉田産業  (株)東奥日報社 八戸酒造(株) (株)日立製作所東北支社 丸大堀内(株) 三八五流通グループ (株)陸奥新報社 (株)ラグノオささき (株)リンクステーション  藤村機器(株) プライフーズ(株) (株)丸大サクラキ薬局  南部電機(株)
企画	・青森県立美術館 ・青森公立大学 国際芸術センター青森 ・弘前れんが倉庫美術館 ・八戸市美術館 ・十和田市現代美術館	池田亨、工藤健志、菅野晶、板倉容子、高橋しげみ、奥脇嵩大 慶野結香 木村絵理子、佐々木蓉子、宮本ふみ 平井真里、大澤苑美、高橋麻衣 外山有菜
公式WEBサイト	<a href="https://aomori-artsfest.com">https://aomori-artsfest.com</a>	
SNS	・ X (旧 Twitter) @aomori_artsfest ・ Instagram @aomori_artsfest ・ facebook @aomori_artsfest ・ ハッシュタグ #青森アートフェス #aomori_artsfes	

## ーAOMORI GOKAN アートフェス 2024 展示構成

1. メイン企画 共通テーマ「つらなりのはらっぱ」のもと各館で開催する展覧会
2. 共通企画 5館を巡回する共通作品の展示
3. 関連イベント 共通テーマから各館で開催される関連企画
4. 同時開催 本フェスの期間中に開催される他の展覧会

### 1 [メイン企画]

#### ○青森県立美術館

「かさなりとまじわり」

前期：4月13日（土）－6月23日（日）

後期：7月6日（土）－9月29日（日）

#### ○青森公立大学 国際芸術センター青森

「currents / undercurrents -いま、めくるめく流れは出会って」

前期：4月13日（土）－6月30日（日）

後期：7月13日（土）－9月29日（日）

#### ○弘前れんが倉庫美術館

「蜷川実花展 with EIM: 儚<sup>はかな</sup>くも煌<sup>きら</sup>めく境界 Where Humanity Meets Nature」

「弘前エクステンジ#06 『白神視<sup>しらかみのぞきみごう</sup>見考』」

4月6日（土）－9月1日（日）

#### ○八戸市美術館

「エンジョイ！アートファーム !!」

4月13日（土）－9月1日（日）

#### ○十和田市現代美術館

「野良になる」

4月13日（土）－11月17日（日）

### 2 [共通企画]

#### ○栗林隆 《元気炉》

青森県立美術館

○展示 | 8/9（金）－11（日）

青森公立大学 国際芸術センター青森

○展示 | 8/14（水）・15（木）

八戸市美術館

○展示 | 8/18（日）・19（月）、21（水）

十和田市現代美術館

○展示 | 8/24（土）・25（日）

弘前れんが倉庫美術館

○展示 | 8/28（水）－9/1（日）

#### ○5館共通 ラーニング・プログラム

①AOMORI GOKAN 鑑賞ツールの制作

\*6月中旬以降配布予定

②高校生サマープログラム

\*7月開催予定

### 3 [関連イベント]

#### ○開幕記念 参加作家によるクロストーク

4月14日(日) 13:30~16:00 受付:13:00~

#### ○青森県立美術館

・音楽フェスティバル「青森の合唱」 9月1日(日) 午後開催予定

#### ○青森公立大学 国際芸術センター青森

・Maher Shalal Hash Baz ライブ「山の上の連絡船」

6月15日(土) 13:00-15:00 予定

#### ○弘前れんが倉庫美術館

・栗林隆《元気炉》× L PACK. ほか 《いっしょくたにへば たげめぐるはんで When you put them all together, it's a complete disaster.》 8月30日(金) - 9月1日(日)

#### ○八戸市美術館

・エンジョイ! パフォーマンスピクニック 5月6日(月・祝) 10:00-17:00

#### ○十和田市現代美術館

・永田康祐《Feasting Wild》 7月14日(日)・20日(土)・21日(日) 18:00-21:00  
11月10日(日)・16日(土)・17日(日) 18:00-21:00

### 4 [同時開催]

#### ○青森県立美術館 「帝国ホテル二代目本館 100周年 フランク・ロイド・ライト 世界を結ぶ建築」

3月20日(水・祝) - 5月12日(日)

#### 「鴻池朋子展：メディシン・インフラ」

7月13日(土) - 9月29日(日)

#### ○八戸市美術館 「展示室の冒険」 4月20日(土) - 6月24日(月)

#### 「tupera tupera のかおてん。」

7月6日(土) - 9月1日(日)

#### 「コレクションラボ 007 大久保景造と八戸文化」

3月23日(土) - 7月8日(月)

#### 「コレクションラボ 008 彩る書」

7月13日(土) - 10月28日(月)

#### ○十和田市現代美術館「尾角典子展」 7月6日(土) - 9月8日(日)

青森県内5つの美術館・アートセンターによるアートフェス

# AOMORI GOKAN アートフェス 2024

「つらなりのはらっぱ」

2024年4月13日(土) — 9月1日(日)

## 2024年度のテーマ「つらなりのはらっぱ」について

「はらっぱ」と聞いて思い浮かべる風景は人それぞれ違うように、青森には「はらっぱ」にたとえられる、個性豊かな5つの現代美術を扱う館が揃っています。「はらっぱ」は目的をもって行くところではなく、訪れることでなにかに会い、なにかが起る、特別だけれど日常とも地続きの場所です。そこは、訪れては去っていく人間、動物、植物などの訪問者たちが関係する境界上に位置し、日々思い思いの活動が繰り返される場とも言えます。本テーマには、5つの美術館やアートセンターがまさに「はらっぱ」のように機能し、それぞれの個性的な活動のつらなりから新たな関係性が紡がれていくようにとの思いが込められています。5館それぞれの「つらなりのはらっぱ」を通して、これまでにない風景がいま、ここに立ち上がることを目指します。

## 本アートフェスの特徴

### ■新しい文化芸術ネットワークの在り方を探る

本アートフェスではディレクターを置かず、5館の学芸員が集まって議論を重ね、コンセプトやテーマを練りあげていきました。これは新しい文化芸術ネットワークの在り方を探り、青森県の文化的多様性とその魅力を伝えていく試みとなります。

### ■5館の個性を接続させることで浮かび上がる「つらなりのはらっぱ」というテーマ

5館は青森市、弘前市、八戸市、十和田市にそれぞれ点在しています。文化圏や都市機能の異なる地域で、5つの館もそれぞれ個性的な活動を行っています。プロジェクトによって各館がゆるやかにつながり、その効果を県全域に波及させていくことを目指した「芸術文化体験+観光」プロジェクトです。今年度のテーマ「つらなりのはらっぱ」のもと、5館の特徴を活かした展覧会、また共通企画として栗林隆《元気炉》が各館を巡回します。

### ■子どもたちが楽しく、アートに触れられる5館共通の鑑賞ツール

アートフェスをより深く楽しむため、子どもや親子を対象とした鑑賞ツールを用意します。5館に親しむための情報や作品鑑賞のコツなどアート体験の入口となるコンテンツのほか、各館の展示やプロジェクトに関するワークシートを制作予定です。※2024年6月中旬以降、配布予定

### ■青森県内の多彩な魅力を5つの美術館、アートセンターを軸に体験する周遊プラン

本州最北端に位置し、三方を海に囲まれた青森県は地域により気候や風土が異なり多彩な伝統、自然、食文化に恵まれています。アートフェスでは、その魅力を再発見してもらうことを目的に、工芸、建築、自然などをテーマに設定し、国内外、また県民や近隣の方にも新しいアートを通じた体験を提案します。

## [メイン企画] 青森県立美術館

### かさなりとまじわり

- 会期 前期：2024年4月13日（土）－6月23日（日）  
後期：2024年7月6日（土）－9月29日（日）
- 会場 青森県立美術館 地下1階展示室、コミュニティギャラリー、ワークショップエリア、屋外ヤード
- 開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）
- 休み 第2・第4月曜日および5/14（火）、15（水）、6/24（月）～7/5（金）
- 参加作家 原口典之 | 吉田克朗、吉田槲子 | 青木 淳 | 井田大介 | 大森裕美子、大森記詩、吉田有紀、  
青秀祐 | Viirtualion ほか



左) 参考図版 吉田克朗 《work 9》 1970年 ユミコチバアソシエイツ蔵

右) 参考図版 原口典之 《F-8E CRUSADER》（「十字路口-CROSSROAD」ART BASE 百島広島での展示風景）  
2014年 ©ART BASE MOMOSHIMA

青森県立美術館を設計した青木淳氏が提唱した「原っぱ」論を援用し、展示室のみならず、コミュニティギャラリーやワークショップエリア、屋外ヤードなども展示やプロジェクトに活用します。展示室を含めた諸室をそれぞれの「原っぱ」に見立て、館内外の至るところでアートを発見、鑑賞、体験できる場を設けることで、美術館全体に大きな「つらなり」を生み出していきます。「展示室で展覧会を見て、ショップやカフェに立ち寄って帰る」だけでなく、県立美術館というひとつの街を自由に散策しながら、建築×アートの魅力を美術館全体から体感いただけます。

テーマは「かさなりとまじわり」。美術館を構成する特徴的な各空間が「かさなり」、いくつかのコンセプトに沿って作品がインストールされることで、青森の自然と人間の「まじわり」、死んだものと生きているものの「まじわり」、現代社会のありようとこれから未来を切り拓いていく人たちとの「まじわり」の諸相を浮かび上がらせていきます。

三内丸山遺跡に着想を得た美術館の施設内外を往還しながら、縄文からつらなる長い時間の中で堆積してきた青森の文化芸術のエネルギーを引き出し、豊かな青い森の生態系のように展示空間を連鎖、循環させることで、未来を切り開くための新しい活力を美術館全体に充満させる試みです。尚、アートフェスの開幕を記念し、5館の企画展・プロジェクトの参加アーティストによるクロストークを開催します。

（2024年4月14日（日）14:00-16:00 県立美術館シアターにて）

## [メイン企画] 青森公立大学 国際芸術センター青森

### currents / undercurrents -いま、めくるめく流れは出会って

会期	前期：2024年4月13日（土） - 6月30日（日） 後期：2024年7月13日（土） - 9月29日（日）
会場	国際芸術センター青森 ギャラリーA・B
開館時間	10:00~18:00
休み	会期中は休み無し
参加作家	青野文昭、Jumana Emil Abboud（ジュマナ・エミル・アブード）、岩根愛、是恒さくら、工藤省治、 光岡幸一、中嶋幸治、澤田教一、鈴木正治、Jasmine Togo-Brisby（ジャスミン・トーゴ＝ブリスビー）、 Robin White（ロビン・ホワイト）、[後期のみ] アイヌの衣服（青森市教育委員会所蔵）
会場構成	山川陸



岩根愛 《The Opening》 2022年

本展では、「現在」という意味をもちながら、海流や気流をはじめとして、ある一定の方向に動く水や空気、電流などの変わり続ける流れを示す「current」と、表面や他の流れの下にある目に見え難い流れや暗示を意味する「undercurrent」をキーワードとして、ある場所とかかわり合いながら表現をつむぎ出す国内外のアーティスト、そして青森ゆかりの表現者たちによる作品が集まります。前期と後期の出展作家は同じですが、会期半ばで展示替えをし、異なる2つの展覧会を行うことで、一回限りでない場所への働きかけや、変化し続ける「いま」をこの場に取り込むことを試みます。それぞれの表現が発生させる流れや渦のようなものが、出会い交差することで、また新たな流れや渦を無数に生成させていく…実験的なアプローチを通して、私たちの現在地を問う企画です。

#### 野外彫刻 |

青森公立大学 国際芸術センター青森の敷地内には野外作品が点在しています。野外彫刻作品、アーティストインレジデンスで制作されその後、展示される作品が混在しています。自然豊かな森の散策と共に国内外の作家による作品を鑑賞いただけます。

国際芸術センター青森は、表現活動を行う人々が全世界から集い、宿泊しながら地域住民や学生らと交流し、滞在制作を行うアートセンターです。

表現者たちは偶然や必然に導かれながら移動し、この青森という土地/場所へやってきます。古代からヒトをはじめとした生き物は、自然の力も借りながら、移動を続けることで生きてきました。生まれた場所、定住する場所、前にいた場所、そしてこれから行く場所は、今たまたま現在地であるここ青森と、どのようにかかわり合うのでしょうか。そして、様々な場所の自然や人間、非人間たちといった存在、そして歴史や記憶と私たちは、いかに交差しつつ、語り合い、とらえ直しながら生きていくことが可能なのでしょうか。



青野文昭 《ここにいないものたちのための群像 - 何処から来て何処へ行くのか - サイノカワラ 2016》 2014 - 2016年



河口龍夫 《関係-時の杖》 2023

## [メイン企画] 弘前れんが倉庫美術館

① 蜷川実花展 with EiM : 儂くも煌めく境界 Where Humanity Meets Nature

② 弘前エクステンジ #06 「白神観見考」



会期 2024年4月6日(土) - 9月1日(日)  
会場 ①弘前れんが倉庫美術館  
②弘前れんが倉庫美術館、HIROSAKI ORANDO、  
ギャラリーまんなか  
開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)  
休み 火曜日 ※ただし4/23(火)・30(火)、8/6(火)は開館  
※館外展示の営業時間は各施設に準ずる  
参加作家 ①蜷川実花 with EiM [Eternity in a Moment]  
②狩野哲郎、佐藤朋子、永沢碧衣、L PACK.

弘前れんが倉庫美術館では展覧会とリサーチ・プロジェクトを実施し  
蜷川実花《花、瞬く光》2022年 ©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

ます。展覧会「蜷川実花展 with EiM : 儂くも煌めく境界」は、写真家・映画監督の蜷川実花が、データサイエンティストの宮田裕章、セットデザイナーのEnzo、クリエイティブディレクターの桑名功らと結成したクリエイティブチーム・EiMとの協働により実現する大規模な個展です。うつろう時間やながれゆく季節の境界を超える壮大なインスタレーションを発表するほか、蜷川が弘前をはじめ、日本各地で撮影した桜の写真など、人の手とまなざしに育まれた花や木々を捉えた作品群を紹介します。展覧会を通じて、人間と自然とが築いてきた関係性を浮かび上がらせ、それぞれが住まう土地の自然やその背景にある文化、歴史を新たな視点から捉え直す機会となることを目指します。

弘前エクステンジ #06 「白神観見考」は、青森県南西部に位置し、弘前市を含む津軽平野を流れる岩木川の源流の地でもある白神山地をテーマに実施するリサーチ・プロジェクトです。狩野哲郎、佐藤朋子、永沢碧衣、L PACK. の4組のアーティストたちが、それぞれの視点で、作品展示を始め、ワークショップやトークイベントなどを実施します。古くから人々の生活を支えてきた川の源となる山々に目を向け、そこに息づく動植物や人々の営みの時間が積み重なる景色に触れることで、いつもの風景が異なるものに見えるてくるきっかけとなることでしょう。



左) 参考図版 永沢碧衣《村景》 2019年 ©かみこあにプロジェクト (秋田)

右) 参考図版 狩野哲郎 《21の特別な要求》 2021年 Courtesy of the artist

## [メイン企画] 八戸市美術館

### エンジョイ！アートファーム！！

会期	2024年4月13日(土) - 9月1日(日)
会場	八戸市美術館 ジャイアントルーム
開館時間	10:00~19:00
休み	火曜日(祝日の場合は翌日) および6/26(水) *ただし4/30(火)、8/13(火)は開館
参加作家	磯島未来、漆畑幸男、しばやまいぬ、蜂屋雄士、東方悠平
会場構成	佐藤慎也



5人のアーティストたち  
(左から磯島、東方、漆畑、しばやまいぬ、蜂屋)

八戸市美術館のコンセプト「出会いと学びのアートファーム」を体現する企画を実施します。展覧会やプロジェクト、コミュニケーションを種として、そこに訪れた人々が得る出会いや学びが栄養となり、それぞれの感性や創造力が育まれる。美術館は、その畑(ファーム)として、多様な活動の土壌となり、まちの未来を創造していきます。そんな美術館を象徴する空間「ジャイアントルーム」で、八戸を拠点に活動する5人のアーティストが、来館者と共につくり、楽しむプロジェクトを展開していきます。作品を鑑賞したり、絵を描いたり、トークプログラムに参加してみたり、ジャイアントルームに滞在するアーティストと交流したり……。絵画や版画、写真、ダンスなど、多様なジャンルで日々繰り広げられる活動により、来館者とアーティストがこの場で出会い、関わり合うことで、まるで畑に蒔いた種のようにどんどん育っていくことを期待しています。

訪れるたびに变化するジャイアントルームのあり方は、訪れる人によって使い方が決められていく「はらっぱ」のような場でもあります。

「はらっぱ」でもあり、「ファーム」でもあるこのジャイアントルームで、様々な作品や活動、そしてアーティストとの出会いをお楽しみいただけます。



東方悠平 《TENGUBUCKS Cafe in Hue - Coffee Float》  
2019年



しばやまいぬ 《疾風少女2》  
2018年

## [メイン企画] 十和田市現代美術館

### 野良になる



参考図版 丹羽海子 《Metropolis Series: Good Egg Community》2022年 Courtesy the artist and Someday, New York Photo : Daniel Terna

会期	2024年4月13日(土) - 11月17日(日)
会場	十和田市現代美術館
開館時間	9:00~17:00 (入館は16:30まで)
休み	月曜日(祝日の場合は翌火曜日) ※ただし、4/22(月)、30(火)、5/6(月)、7/15(月)、 29(月)、8/5(月)、13(火)、9/16(月)、23(月)、 10/14(月)、11/4(月)は開館
参加作家	丹羽海子、葦原蓉子、アナイス・カレニン、永田康祐

年々上昇する気温と、それに伴い激しさを増す自然災害。私たちの生活を支えていると思っていた自然環境は不安定性を増し、人間の自然に対する関係を再考することが求められています。しかし現在私たちが知る「人間」のあり方そのものが、自然を管理すべきものとして収奪してきたのだとすれば、そのおなじ「人間」が自然を「救う」ことができるのでしょうか。本展では近代が生み出した自律した主体としての「人間」を見直し、そこから排除された存在や思考に目を向けます。私たちの思考を規定するさまざまな二項対立的な枠組みの境界を攪乱しつつ強かに——野生でも飼われるのでもなく野良のように——息づくあり方や物語に出会うことになるでしょう。

日本とアメリカにルーツを持ち、トランスジェンダー女性として生きるあり方を彫刻で表現する丹羽海子、学校教育を離れ、独学でドローイングを柔らかいウールへと変換し風景を描く葦原蓉子、品種改良や養殖といった人間のコントロールと動植物の生の関係を取り上げ、映像や料理の作品を作る永田康祐、ブラジルに植民地時代以前から伝わる知識をもとに、植物と人間の関係を問い直す作品を制作するアナイス・カレニンなど、多様な視点から自然を捉える若手アーティストの表現を紹介します。



参考図版 葦原蓉子 《それじゃわからない》2022年 ©Yoko Daihara, courtesy of Take Ninagawa, Tokyo.

参考図版 アナイス・カレニン 《リコマペ》2022年 Photo: 竹久直樹

参考図版 永田康祐 《Purée》2020年



### 常設展示 |

常設展では、人間と自然をテーマに、ロン・ミュエクや、塩田千春、レアンドロ・エルリッヒなど、世界で活躍するアーティストたちの作品を展示しています。いずれも、展示室や床全体に広がるインスタレーション、作品内部に入ることのできる彫刻など、ここ十和田でしか鑑賞することができない作品ばかりです。さらに美術館向いのアート広場やまちなかにも作品が点在しています。



参考図版 ロン・ミュエク 《スタンディング・ウーマン》 Courtesy Anthony d'Offay, London Photo: 小山田邦哉

## 【共通企画】 栗林隆 《元気炉》

本アートフェス後半の8月から最終日にかけて、栗林隆による《元気炉》が開催館を巡回します。栗林隆は、空間の内と外、自然と人間、人間同士の間にある境界など、あらゆる時代や場所に存在する「境界」に目を向けて、その意味を問い直すような作品を制作してきた作家です。《元気炉》は、原子炉の形状をした構造物に薬草の香りを帯びた蒸気を発生させて、観客が中に入って体験することが可能な作品です。

本作は、作家がかつてタイに赴いた折、その土地で採取されるハーブを用いたスチームサウナによって、体調不良だった体にエネルギーを取り戻したという経験に由来します。ここには、2011年の東日本大震災後に再認識した原発事故の恐ろしさと、持続性の高い自然エネルギーや再生可能な社会に向けた提案とを重ね合わせた構造となっています。原子炉を模した作品の内部空間や周囲に人々が集い、植物のエネルギーを感じることで本作は、人と自然の境界線上に生まれた場所であり、それは本アートフェスのテーマである「つらなりのはらっぱ」を体現するように、ここに集った人々が、みえざる境界線をまたいで、世界との新たな関係性を構築する機会を生み出そうとするものです。



栗林隆 《元気炉》2022年（《蚊帳の外》ドクメンタ15、ドイツ・カッセル）より Photo: Rai Shizuno

### | 展示スケジュール

\* 作品が稼働する日時の詳細は、公式WEBサイトで後日発表します。

8月9日（金）-8月11日（日）	青森県立美術館
8月14日（水）-8月15日（木）	青森公立大学 国際芸術センター青森
8月18日（日）、19日（月）、21日（水）	八戸市美術館
8月24日（土）、25日（日）	十和田市現代美術館
8月28日（水）-9月1日（日）	弘前れんが倉庫美術館

## 各美術館について

### 青森県立美術館

| 建築家：青木淳

隣接する三内丸山遺跡の発掘現場から着想を得た、トレンチ（壕）とホワイトキューブからなる建築が独創的です。シャガールのバレエ「アレコ」舞台背景画のほか、奈良美智、棟方志功、成田亨など郷土作家の作品を展示。日本画や洋画、現代アートまで幅広いコレクションと演劇・音楽など舞台芸術への取り組みにより、豊かな芸術の魅力を発信しています。

→<https://www.aomori-museum.jp/>

### 青森公立大学 国際芸術センター青森

| 建築家：安藤忠雄

周囲の豊かな自然環境を生かし、建物を森に埋没させる「見えない建築」をテーマとした建築が特徴的です。アーティスト・イン・レジデンス（滞在制作）を中心に、ジャンルに捕らわれない展覧会、トーク、ワークショップなどを開催しています。春から秋にかけては敷地内の森の散策や、20数点を数える野外彫刻の鑑賞も楽しむことができます。

→<https://acac-aomori.jp/>

### 弘前れんが倉庫美術館

| 建築家：田根剛

約100年前に酒造工場として建てられた煉瓦造の建物を改修した美術館です。「記憶の継承」をコンセプトに、建物本来の姿を残してリノベーションを行いました。建築や地域に根差したコミッション・ワークを重視し、奈良美智、ジャン＝ミシェル・オトニエルの作品をはじめ弘前ならではのコレクションを形成。黒いコルタールの展示壁など空間の特性を生かした現代アートの展覧会を開催しています。

→<https://www.hirosaki-moca.jp/>

### 八戸市美術館

| 建築家：西澤徹夫、浅子佳英、森純平

様々な活動を支える巨大な空間「ジャイアントルーム」を取り囲むように、展示室などの専門性の高い個室群が配置されています。〈種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館～出会いと学びのアートファーム～〉をテーマとし、八戸の美や文化を伝える収蔵作品を様々な切り口で紹介する展示や、幅広いジャンルの企画展、プロジェクトを展開しています。

→<https://hachinohe-art-museum.jp/>

### 十和田市現代美術館

| 建築家：西沢立衛

人間と自然をテーマに、草間彌生、奈良美智、ロン・ミュエクなど世界で活躍するアーティストらの作品を常設展示しています。展示室1部屋に1作品を展示することで、作品の中に入り込むような鑑賞体験ができます。大小様々な展示室がガラスの通路でつながれており、アートの家を訪ね歩くような構造が特徴的です。館内だけではなく、周辺のアート広場や商店街にも作品が点在し、まち全体でアートを楽しむことができます。

→<https://towadaartcenter.com/>



©Naoya Hatakeyama

©Daici Ano



## ー関連情報 [チケット、グッズ、周遊コースなど]

### ▶ 周遊チケット

オンライン販売のみ（電子チケット） 数量限定！

## 公式ガイドブック付き 5館周遊チケット

一般 | 3,700 円 (税込)

会期中、5つの美術館・アートセンターで開催する本フェスの [メイン企画] を鑑賞できる、公式ガイドブック付き周遊チケットです。各館で個別に観覧券を購入するより 1,800 円お得になります。さらに公式ガイドブックには「スタンプラリー&パスポート」が一体になっており、「スタンプラリー」は 5館全てを周遊するとオリジナルグッズが抽選で当たります。一方「パスポート」は、フェスの会期中に 5館で開催する他の展覧会や美術館周辺の公式フェスサポーターのショップ、施設での割引やサービスなどの特典が受けられます。

2024年2月14日（水）よりオンライン限定で販売します。

- 販売開始 2024年2月14日（水）より  
\*購入にあたり事前に「ArtSticker」への登録が必要です  
\*販売予定数量に達し次第終了となります
- 有効期間 2024年4月13日（土）ー 9月1日（日）  
\*各館の [メイン企画] の会期は異なります。詳細は公式 WEB サイトに記載しております
- 購入方法 オンラインのみ  
▶専用サイトから (ArtSticker)  
[https://artsticker.page.link/AOMORIGOKAN\\_ArtsFest24](https://artsticker.page.link/AOMORIGOKAN_ArtsFest24)
- 
- 専用サイト
- 備考
- 5会場それぞれ1回のみ使用可能な周遊チケットです。
  - ご利用はフェス開催期間中（2024年4/13-9/1）有効です。
  - 一般（大人）のみの販売です。小学生未満は大人同伴に限り入場無料です。
  - 販売はオンラインのみです。各館での販売はありません。
  - 定数になり次第、販売終了となります。
  - 最初に入館される施設の受付で「公式ガイドブック」をお渡しします。

▶ 公式ガイドブック

## 公式ガイドブック 1,300 円 (税込)

スタンプラリー&パスポート付き!! ミュージアムショップ、オンラインで販売

各館で開催する展覧会や施設情報に加え、5館が位置する各市のエリア情報、周辺の観光、グルメスポット、さらには周遊のモデルコースなど充実した内容のガイドブックです。青森県外からの行き方に加え、県内を移動するアクセス情報も分かりやすくまとめました。各館のミュージアムショップ（青森公立大学 国際芸術センター青森をのぞく）、青森県内の書店、並びにオンラインでも購入可能です。

販売先： 各館のミュージアムショップ、青森県内の書店  
体裁： A5変形/全108ページ/フルカラー  
発行： 有限会社グラフ青森  
オンライン販売 公式WEBサイト（リンク先：グラフ青森 注文フォーム）



### 公式ガイドブック特典 「スタンプラリー&パスポート」

ガイドブックと一体になった「スタンプラリー&パスポート」で、美術館や公式フェスサポーターのショップ、施設で提示すると様々な割引やサービスが受けられます。

○有効期間 2024年4月13日(土) - 9月1日(日)

○特典1

#### 美術館で同時期に開催する展覧会の観覧料を割引

フェスの会期中に5館で開催する[同時開催]の観覧料が割引になります。20名様まで有効。\*フェス期間中、各美術館で1日限り有効

○特典2

#### フェスサポーターのショップ、施設で割引やサービスなどの特典

本パスポートを提示いただくと様々な割引やサービスが受けられます。特典が受けられる時期や内容・条件は異なります。詳細は公式WEBサイトをご覧ください。

○特典3

#### 抽選でオリジナルグッズをプレゼント

会期中、本フェスの[メイン企画]を鑑賞し、5つのスタンプを集めた方には抽選でオリジナルグッズを差し上げます。

- ・応募方法 各館の応募箱または事務局への郵送
- ・後日厳正なる抽選の上、当選者へ商品を発送します



## ▶ 周遊モデルコース

本フェスは、美術館巡りとあわせて、青森県の豊かな自然、伝統文化を体験いただくこともコンセプトの中心となっており、ガイドブックを中心に周遊モデルコースを提案しています。公共交通機関で巡るコースや「自然」「工芸」をテーマにしたコースなど、詳細はガイドブックのほか、公式 WEB サイトでも紹介します。さらに展示のテーマをより深く楽しんでいただくため、周辺の文化施設や自然を巡る鑑賞ツアー、学芸員によるガイドなどを実施予定です。詳細は公式 WEB サイトで更新していきます。

### ●公共交通機関と徒歩で周遊 1day プラン (青森市、弘前市、八戸市、十和田市)

バスなどの公共交通機関や徒歩のみで巡るモデルコースです。各館がある青森市、弘前市、八戸市、十和田市の4つのエリア別に1日で周遊できるプランを紹介しています。

### ●ほぼ公共交通機関で5館をめぐる「アート×ご当地グルメ」 2泊3日プラン

### ●公共交通機関と徒歩でめぐる「アート×自然」八戸～十和田 2泊3日プラン

青森県には東北地方の脊梁として中央に八甲田山を代表とする奥羽山脈が位置し、日本海側と太平洋側では自然や歴史、食文化などが異なります。モデルコースでは美術館を中心に周辺の食や自然を体験できる周遊や5館全てをほぼ公共交通機関を使って巡るプランを案内しています。

### ●車でめぐる「アート×工芸体験」弘前～青森 2泊3日プラン

青森県には地域の生活の中で生まれ、育まれた塗物や織物などの伝統工芸品が多数あります。こちらのモデルコースではそれらの体験を含む周遊プランを提案しています。

### ●青森県内を周遊する貸切日帰りバスを運行 毎月実施

フェスの会期中、5館と各地域にある自然や食、建築など豊かな文化に触れる日帰りバスツアーを毎月実施します。初回はオープニングにあわせ、4/13(土)と4/14(日)に実施します。詳細は公式 WEB サイトでご案内します。旅行企画実施：(株)また旅くらぶ

#### <2024年4月>

- ・4月13日(土)「アート×桜」青森⇄弘前 参加費：1名12,000円(税込)

青森駅→新青森駅→青森県立美術館→青森公立大学 国際芸術センター青森→ふじさき食彩テラス→桜並木→弘前れんが倉庫美術館→弘前城(桜)→新青森駅→青森駅

- ・4月14日(日)「アート×桜」八戸⇄十和田 参加費：1名10,000円(税込)

八戸駅→八戸市美術館→道の駅とわだ→農園カフェ日々木→十和田市現代美術館→アート広場→十和田市官庁街(桜)→八戸駅

#### <2024年5月>

- ・5月2日(木)「アート×りんごの花」八戸⇄弘前 参加費：1名13,000円(税込)

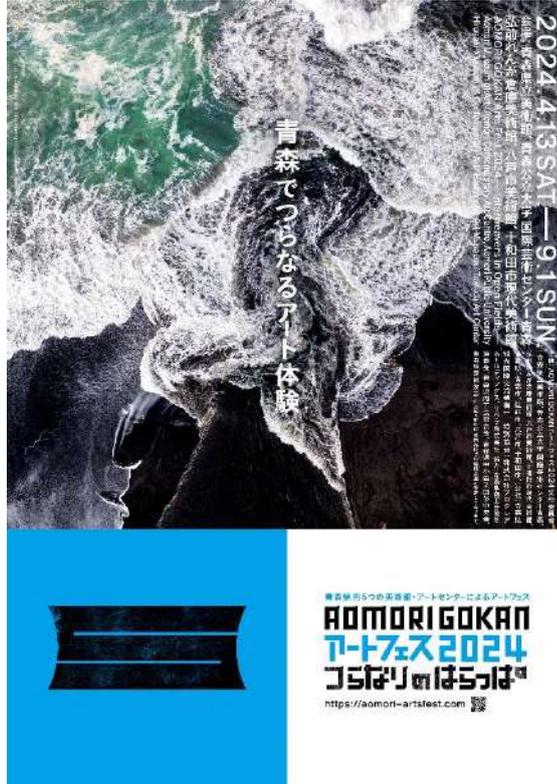
- ・5月8日(水)「アート×菜の花・つつじ」弘前⇄青森 参加費：1名25,000円(税込)

また旅くらぶ



▶ ポスター、チラシ

● ポスター



● チラシ



デザイン | 野間真吾 <アートディレクター/デザイナー>

大阪府生まれ。ロンドン芸術大学 (London College of Communication MA Graphic Design) 修士課程卒。国内外のデザイン会社を経たのち、2008年株式会社佐藤卓デザイン事務所入社。2017年にデザインオフィス NOMA Inc. 設立。ISSEY MIYAKE KYOTO | KURA のアートディレクターを務める。東京 ADC 賞 2020—2021、JAGDA 賞 2020、東京 ADC 賞 2019 など受賞。2022 毎日デザイン賞ノミネート、Dezeen Award 2020 (Interior Large Retail 部門) Short listed。

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会  
事務局 (青森県立美術館内)  
担当: みのしま まくらげ  
TEL 017-783-3000 E-MAIL bijutsukan@pref.aomori.lg.jp

AOMORI GOKAN アートフェス 2024  
広報事務局 (エヌ・アンド・エー株式会社内)  
担当: 鎌倉、永倉 TEL 03-6261-5784  
E-MAIL aomoriart-gokan@nanjo.com

▶ 公式 WEB サイト

<https://aomori-artsfest.com>

公式 WEB サイトは、会期中に開催する各館の展覧会やイベント、周遊モデルコースのほか、施設周辺の公式フェスサポーターのショップ、施設の情報や特典内容を随時公開します。青森県外からのアクセスとあわせ、5つの美術館、アートセンターを移動する際、参考にしていただけるロードマップなど、はじめての青森を訪れる方にも便利で役に立つ機能が充実しています。



▼各館 ページ



▼検索機能



▼周遊モデルコース



▼アクセス



## AOMORI GOKAN アートフェス 2024 [メイン企画] / [共通企画] 広報画像申請書

2024年4月13日（土）－ 9月1日（日）

## ■ 貴社についてお知らせください

○媒体名

○貴社名

○ご担当者名

様

○所属部署

○ご住所〒

○E-mail

○TEL番号

○FAX番号

○ご掲載・放映の予定日が決まっておりましたらお知らせください

月

日

## &lt; 広報画像、取り扱いに関するお願い &gt;

- 作品画像の使用はAOMORI GOKAN アートフェス 2024をご紹介いただく場合のみとし、閉幕後の使用はできません。
- 作品画像をご紹介いただく場合は、展示美術館名、指定のキャプションを必ずご記載してください。
- 全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせは禁止となっております。
- 掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で広報事務局までFAX又はメールにてお知らせください。
- ご掲載頂いた場合は、お手数ですが、掲載紙（誌）または同録を広報事務局までお送りください。

## ▼ 希望される広報画像の番号に「○」をつけてください。

## A AOMORI GOKAN アートフェス 2024 ポスター画像

## B AOMORI GOKAN アートフェス 2024 [共通企画]

栗林隆 《元気炉》2022年（《蚊帳の外》ドクメンタ15、ドイツ・カッセル）より Photo : Rai Shizuno

## 1 青森県立美術館 外観

- 1-1 参考図版 吉田克朗 《work 9》1970年 ユミコチバアソシエイツ蔵
- 1-2 参考図版 原口典之 《F-8E CRUSADER》（「十字路-CROSSROAD」ART BASE 百島広島での展示風景）2014年 ©ART BASE MOMOSHIMA

## 2 青森公立大学 国際芸術センター青森 外観

- 2-1 岩根愛 《The Opening》2022年
- 2-2 青野文昭 《ここにいないものたちのための群像 - 何処から来て何処へ行くのか - サイノカワラ 2016》2014-2016年

## 3 弘前れんが倉庫美術館 外観 ©Naoya Hatakeyama

- 3-1 蜷川実花 《花、瞬く光》2022年 ©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery
- 3-2 参考図版 狩野哲郎 《21の特別な要求》2021年 Courtesy of the artist

## 4 八戸市美術館 外観 ©Daici Ano

- 4-1 5人のアーティストたち（左から磯島、東方、漆畑、しばやまいぬ、蜂屋）
- 4-2 参考図版 東方悠平 《TENGUBUCKS Cafe in Hue - Coffee Float》2019年

## 5 十和田市現代美術館 外観

- 5-1 参考図版 丹羽海子 《Metropolis Series: Good Egg Community》2022年 Courtesy the artist and Someday, New York Photo : Daniel Terna
- 5-2 参考図版 アナイス・カレニン 《リコマベ》2022年 Photo : 竹久直樹

